



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「朱夏の女優黒木瞳のインド ③」

とうとう本隊がやってきた。

デリー空港の出口で待っていると、サングラスに黒服姿の女優かたせ梨乃が真っ先に目に付いた。テレビで観るよりも数段にスタイルがよい。

(やっぱり、オーラがある)

ところでビザは取得できたのか。

(答えはNOだ)

撮影ビザは数名しか取得できなかった。

(どうするんだよ。インドのカミ様!)

もし、警官に撮影の許可書を見せろと言われたとき、わが輩が前面に出て取得者のビザだけを見せて誤魔化そうということになった。

ええい、どうにでもなれ!と居直ったが、カミ様は見捨てなかった。

第一撮影現場アーグラでの秘話を語ろう。

インドの少女が登場するシーンがあるので、現地で募集しなければならない、ということになった。エンポリウム(大型土産物店)のオーナーの娘を引っ張り出して撮影したが、どのシーンで登場するのかわが輩には分からなかった。薄水色の布を壁に貼り、少女を立たせて撮影した。合成シーンのためのものであった。

ラスト・シーンで黒木が成田空港に着いたとき、少女が幻影として現われる。黒木の想いが少女を引き寄せたというわけである。

次の撮影はアーグラ近村で行うことになった。アクバル帝の廟があるスィカンドラーの先にある。村人が寄ってこないのが楽な撮影である。村だから何もない。それで困ったことが起こった。

かたせがわが輩に訊いた。

「どこかおトイレがありませんか」

わが輩はトイレの有無を村長に訊いた。

ある、というので村長に従って見に行った。

「ダンナ、ここがトイレだよ」

おい、おい。ここは単なる家屋の角ではないか。便器もない。扉もない。何にも無い。

(こんな場所で、あの豊満な女優かたせにオシッコをせよ!とは言えないぞ)

わが輩は村長に訊いた。

「学校に無いのか」

「そんなものは無いよ。ダンナ」

(おう、まいごっど)

「一体村の女性は、毎日どこでトイレをしているんだい」

村長が案内してくれたのは、われらの専用バスが泊まっているすぐ側であった。

「村長さん。どこにトイレがあるんだい？」

(かたせがオシッコをちびるじゃないか。わが輩はイライラだ)

彼が指差した先に低い砂丘があった。わが輩は脱兎の如く砂丘を駆け上がった。

「うわ！こりゃダメだ」

糞が溢れ悪臭がわが輩を襲った。それに丸見えだ。

(かたせの豊かな尻を天下にさらすわけにはいかない！)

わが輩は転げ落ちるように砂丘から下り、そして慌てて訊ねた。

「近くにトイレはないのか！？」

ドライバーが15分ほどのアクバル廟なら観光地だからある、と言った。

「かたせさん、バスに乗って下さい」

それを聞いた二宮と黒木が同乗することになった。

ところが、読者諸氏よ。何が起こったと思う。

ドライバーがエンジンをかけた。ブルン！ブルン！と音を立てたが、なんとプッス〜と止まってしまった。いわゆるエンストというやつだ。

(おう、まいごっど。わが輩はもう知らん。カミさまなんて知らん！)

ドライバー助手は悠長に下りていくと、バスの下に潜り込んで部品を外し始めた。

(もうダメだ。わが輩の膀胱が破裂するような悪夢だ)

またまた、突然“事件”が起こった。

かたせが叫んだ。

「我慢できないわ！」

ダダ・・ッとバスから下りたかたせが、脱兎の如く砂丘を駆け上っていったのである。

(わが輩はこのシーンを一生忘れない。すごい勢いだっただ)

わが輩は後姿を視線で追ったが、直ぐに気付いた。

(見ちゃだめ！)

そうこうするうちにエンジンがかかるようになった。二宮は我慢することになり、黒木だけがトイレに行くことになった。バスの中で二人きりになった。

(ラッキー・チャンスだ。トイレ問題がなければ・・・)

アクバル廟にトイレはあった。門衛に頼んで使わせてもらったが反響音が強い。つまり黒木の放尿音を聞くことになる。わが輩は紳士だ。そこで考えた。聞いていない、聞こえないことを黒木に無言の伝達をしなければならない。わが輩が取った手段は、大きな声で門衛と話すことであった。

「雉を撃ちに行く」は、男性が屋外で用便するという日本の喩えである。四方八方丸見えのデカン高原で雉を撃つと、宇宙の中心になったような解放感がある。女性の場合は「花を摘む」と日本では美しく喩えるらしいが、インド女性のトイレ問題は深刻である。スラムや農村では、まだトイレのないところが多い。畑に用便に行った女性がレイプされた事件があった。特に雨期のときは大変である。さらに妊婦や老女には負担が大きい。

地震や災害のとき初めて水洗トイレ、特に洋式トイレの有難さを知ることになる。日ごろから和式および紙無しトイレの訓練を怠ることなかれ。